

冬物衣料に多いキルティング製品や高密度織物を使用した製品などでは、ドライ洗剤などの揮発性成分が残留して色に変化が生じることがあります。今回は、ドライ洗剤などの残留による際つきについて紹介します。

監修／クリーニング総合研究所



### 衣類の状態

表示を参照してキルティングのジャンパーを石油系溶剤でドライクリーニングし自然乾燥を行ったところ、全体の各所縫い目に沿った部分が濃色になった。

縫い目部分などは、乾燥が遅れるため洗剤液が移動、集中しやすい。

濃色部に水をスプレーすると速やかに吸収して濡れた状態になることから、ドライ洗剤を主体とした成分が残留していることが推定できる。

### 原因

脱液後に残留していた洗剤液が乾燥の段階で縫い目部分に移動、集中し、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の揮発性成分が濃縮されたことにより濃色になったもの。

このような現象は、洗剤液が浸透しにくい性質をもつ樹脂コーティング製品や高密度織物製品などに発生しやすく、中わたや羽毛を使ったキルティング製品は、洗剤液の残留量が多くなるためさらに発生しやすい。

なお、㊤表示を付ける際のJ1



キルティングのジャンパー

Sの試験条件には、タンブル乾燥が含まれている。

### 事故の防止対策

ドライ洗剤の残留をなくすことが絶対条件となるが、石油系ドライクリーニングの場合には※1浴循環式のシステムが基本になっているため、ドライ洗剤をすすぎ出す工程を実際上とることができず、完全な防止は困難。適正な溶剤管理を行うことで、できる限りシミの発生を軽減することが基本となる。

主なポイントは次の通り。

●溶剤の酸価と着色状態を管理しながら常に清浄な状態を保つ

石油系ドライクリーニングでは、パウダーやろ紙等によるろ過と、活性炭や脱酸剤等での吸着により溶剤を清浄化しているが、フィルター性能の低下や能力不

足、吸着性のない油性汚れの存在などにより、すべての汚れをフィルターで完全に補足することは不可能である。これらの汚れが溶剤中に蓄積することもシミの発生原因になる。

●洗淨時間を適正に設定する

1浴フィルター循環による洗いを基本とする石油系ドライクリーニングでは、汚れがフィルターで完全に除去された時点で洗淨を完了するのが理想であり、洗淨時間は、フィルターで汚れが十分に除去されるよう考慮して設定する。

●脱液を十分にを行い、汚れた洗剤液の残留量をできる限り少なくする

●汚れや加工剤などが部分的に集中しないように乾燥方法を工夫する



各所縫い目に沿って濃色になっている

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」

※1 浴循環式…一つの槽内で、ベースタンクから同一の溶剤をフィルター循環させて洗淨する方式

- 品名…ジャンパー
- 素材…表面：ナイロン 100%  
裏面：ポリエステル 100%  
詰め物：ポリエステル 100%
- 取扱表示…
- 処理方法…石油系ドライクリーニング、自然乾燥、ハンドアイロン仕上げ